

方策 11. BCP の検証と対応

「次なるコロナ」「次なる災害」を避ける努力は続けるべきであるが、リスク管理上、これらは避けて通れないものと捉え、備えを十分行うことが重要である。コロナ禍の教訓をダイレクトに生かし、持続可能性を高めることが試されるところでもある。「100年に一度」と言われる災害等であっても現実的なリスクとして捉え、BCP（Business Continuity Plan、事業継続計画）を策定する必要がある。

SDGs 達成へ向けた留意点

1. 早期警告システムをきちんと配備する¹⁸とともに、情報共有体制を整えることが重要。これは、多国間に限らず、国、自治体などあらゆるレベルで必要なことであり、パートナーシップ構築の基盤ともなる。
2. 感染症に配慮した避難マニュアルづくりとその実施体制整備を行う。また、災害連携協定等、官民が連携した体制を整備する。
3. 医療体制の充実：遠隔医療のための技術開発と実現体制の促進と整備¹⁹

達成に貢献する主なターゲット

- 1.5（貧困層や状況の変化に影響を受けやすい人々のレジリエンス向上）
- 3.2（新生児と5歳未満児の防ぐことができる死亡の撲滅）
- 3.d（健康リスクの軽減・管理のための能力強化）
- 11.5（災害による死者や被災者数の削減と世界のGDP比における直接的経済損失の大幅な縮小）
- 11.b（「仙台防災枠組 2015-2030」に沿った総合的な災害リスク管理の策定・実施）
- 13.1（気候関連災害に対するレジリエンス）

¹⁸ 外務省『『誰の健康も取り残さない』ための我が国の協力 -世界のUHC達成に向けて-』

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100101478.pdf>（最終アクセス：2020年2月28日）

¹⁹ Bertelsmann Stiftung and Sustainable Development Solutions Network（2020）：Sustainable Development Report 2020, 9-12pp.